

---

# この気持ちは・・・！？ ～氷離小説 後編～

ひな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

この気持ちは・・・！？ ～氷雛小説 後編～

### 【Nコード】

N4672K

### 【作者名】

ひな

### 【あらすじ】

氷雛小説 後編なのさ～

氷輪丸の前に雛森が立つ・・・。

「氷輪丸さん・・・。」

「あ・・・。」

ずいつ。

「え・・・？」

突然氷輪丸の顔に真新しい雑巾が押し当てられる・・・。

「何を・・・？」

「何をつて、床をふくんですよ。日番谷くんが起きたときにすべつて転んじゃっ

たらたいへんじゃないですか。」

「我が主はそんなドジではないと思うのだが……。」

きつ……！

雛森が氷輪丸をにらみながら、『いいからさっさとふいてくださいっ！』と怒鳴る。

そんな雛森の言葉に氷輪丸は反射的に反応してせっせと床をふいた……。

またの沈黙……。

黙々と床をふく2人……。

勇音は別の患者のところに行き、部屋には雛森と氷輪丸……そしていまだ霊力が回復

せず眠っている日番谷だけしかない。

なんか……気まずいな……。

勇音さんもないし……日番谷くんも寝てるし……。

だいたい私、氷雪系最強の斬魂刀さんにこんな雑用させちゃって……。

氷輪丸さん……怒ってるかな……。

今更ながらそんなことを思う雛森……だがそんな雛森の思いとは裏腹に

一方の氷輪丸はというと、

なんなんだこの気持ちは恐怖・・・ではない・・・恐れ・・・でもない。

だがものすごくときどきする・・・この・・・この気持ちは・・・。

そんなことを考えこんでいた・・・。

お互いをちらちら見合う2人・・・そうこうしてるうちに早1時間。

床などとうの昔に乾いていた・・・。

なんの理由もなくただ乾いた床をせつせとふく・・・いや、これは磨くの

分類に入っていた……。

意味もなく雛森と氷輪丸の床だけ輝いてる……。

だが2人とも手を止めない……そうこうしてるうちにやっとの

思いで雛森が終わりを告げる。

「そ、そろそろ終わりにしませんか……？」

床もきれいになりましたし……ね？」

もはやとうしょの目的など関係なくなってきたいる。

「ああ……そうだな……。」

「私、雑巾洗ってきますよ・・・氷輪丸さんの雑巾も貸して・・・！」

そういつて立ち上がった瞬間、雛森を激しいめまいが襲う・・・。

「あっ・・・・・・・・。」

倒れそうになって雛森を慌てて自分のほうに引き寄せる氷輪丸。

「す、すみません。また私・・・・・・・・！」

目の前には氷輪丸の顔・・・。

「あっ・・・も、もう大丈夫なんで離してください・・・。」



そういつてあばれる雛森を離さない・・・そうして氷輪丸が雛森に  
触れようとしたとき・・・

ばん！

いきなり窓が開く・・・

そこから入ってきたのは灰猫と飛梅だった。

「ダーリン！！会いたかったあゝ！！」

氷輪丸に抱きつくこうとする灰猫

「ちょっと灰猫！ここは敵地なんだからもつと小さい声で・・・し  
や・・・」

そんな灰猫のしっぱを押さえつける飛梅

だが視界の中にお互いが入った瞬間固まる双方の2人・・・そしてしばらくして灰猫・飛梅が動く・・・

「ちょっと・・・あんた雛森じゃない？あたしのダーリンになにやってんのよお。」

そういつて氷輪丸から雛森を無理やりはがし自分が氷輪丸に抱きつく灰猫。

「ダーリン！もお浮気なんて許さないんだから・・・ダーリンにはあたしがいるでしょお！！」

そういつて氷輪丸に迫る灰猫・・・

そしてそのてから逃げようとする氷輪丸・・・

そんな2人のやりとりを半分あきれながら見ている雛森・・・その雛森の手を誰かが

強く握る・・・そして続の瞬間・・・！

ドカーン！！

・・・ガラガラ・・・！！

氷輪丸と灰猫のすぐ後の壁が壊される・・・

「ちよっ・・・！飛梅！！あんたなにすんのよ！」

飛梅に詰め寄る灰猫・・・だが飛梅の視界の中には灰猫など入っていない・・・。

「氷輪丸さま・・・あなたこの子にいったいなにしたの・・・？」

飛梅が強く手を握った自分の主と氷輪丸の顔を見る

「は・・・？」

しゃらん・・・鈴を握る

「はじゃなくて・・・いったいなにしたのか聞いてるんです・・・」

しゃらん・・・しゃらん・・・鈴を強く握る

「いやその・・・間違っで・・・こう・・・なっでしま・・・！」

しやらん・・・！！鈴を振り上げる！　そう真面目に答える氷輪丸に火球が飛ぶ・・・。

「あなた・・・！間違っってどこをどう間違ったらあんなふうになるっっていうんですか！！」

だいたいあのやらしい抱きしめかた・・・！あのメガネを思いだすわ！！きーーーーっ！！」

飛梅の怒りは収まらない・・・壁には無数の穴・・・。

床にのびる灰猫・・・そして氷輪丸・・・。

雛森がやっとのことでとめるころには・・・病室はめちゃくちゃになっ

て氷輪丸は髪の毛が爆発していた・・・。

『この・・・あのときの気持ちはなんだったんだろう・・・』だが  
氷輪丸はこの後

今おこった出来事の記憶をすべて忘れることになる・・・。

収まりきらない飛梅の怒りによって・・・。

「まったく・・・ままままったくありえないは・・・あの人にあんなことを！！！」

く終わりっく

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4672k/>

---

この気持ちは・・・！？ ～氷離小説 後編～

2011年10月10日01時22分発行